Dream times Possibility

「ユメ」かける「可能性」

D×Pの考えるユメは、

「ひとり旅をしてみたい」「推しのライブに行きたい」
「好きな人と子どもと4人家族で暮らしたい」
「車の整備士になりたい」「ラーメン食べたい」

ちょっとでもやってみたいことも含めて自由に描くもの。
ユメは、未来に対する期待だと考えています。

人には、たくさんの可能性があります。
しかし、環境や周囲の人との関係性のなかで可能性が閉ざされることもあります。

ひとりひとりがユメを描ける状態にあること、
そして、本人の持つ可能性を発揮できる環境があること
この2つをかけ合わせることが
若者が希望を持てる社会の実現に重要な要素だと考えています。

ひとりひとりの可能性が拡がるように
10代と社会をかけ合わせていくことがD×Pの役割です。

ロゴに込めた思い

「可能性も困りごとも両方を見つめ、ひとりひとりの10代に関わっていく」という決意を込めて。明暗のグラデーションを持ち、ともに未来へと進んでゆくイメージを伝えるために夜明け空から2色を配しました。

「d」と「p」の斜めのまっすぐなラインは、「常に時代の変化に即して革新的な取り組みを行ない、社会的インパクトを出す」ことを、線の中央は10代と社会をつなぐ「結び目」を表現しています。

このロゴマークは、2016年に制定されたロゴを元に、D×Pの活動領域の変化・ブランドイメージの変化に合わせて2021年にアップデートしました。

認定NPO法人 D×P（ディーピー）

〒540-0032
大阪市中央区天満橋京町1-27
ファラン天満橋33号室

info@dreampossibility.com
www.dreampossibility.com
@npo_DxP
www.facebook.com/npodxp

取引銀行　ゆうちょ銀行 〇九九店 当座 0332445
楽天銀行 第二営業支店 普通 7079724

理事　今井紀明／塩田陵／村中直人／入谷佐知

監事　毛受芳高

スタッフ　野津岳史／宮﨑あゆみ／大宅穂香／熊井香織／磯みずほ／原口茜／岡田正光／芳本良輔／玉井慎太郎／佐々木貴史／岡崎拓也／井階正純／鈴木有紀／中薗優輝／若井彩美／小田由希子／小薗明日香／中西真由／黒瀬公美／西元桃香／野田隆史／三田村裕介／藤崎壮志／森下祐子

以下、2021年度内に卒業したスタッフ ――
山元誠司／鮫島美月／筌場彩葵／中川沙登美

顧問弁護士　高橋健

写真　西川優介

デザイン　雪崩式

月額寄付サポーター募集中！

月1,000円からの月額寄付で
D×Pの活動に参加できます。

D×Pへ寄付していただくと、
最大約40%のお金が戻ってきます！

月1,000円のご寄付を1年間すると、
最大約5,000円の控除

D×Pは、大阪市から認定を受けた「認定NPO法人」です。
認定NPO法人へのご寄付は、税控除の対象となります。
地方税も寄附金控除の対象となりますが、控除割合は各自治体によって異なります。
詳細については、各自治体にお問い合わせください。

D×P ANNUAL REPORT 2021-22

10代をひとりにしない
認定NPO法人 D×P（ディーピー）

活動報告書 2021-22

D×Pと、ひとりひとりの10代をご支援くださっている皆様へ
感謝を込めて。

Interview

食糧や現金の緊急支援から ひとりひとりのユキサキへ

2021年の夏。ユキサキチャットでつながった20代の女性がいます。
若菜さん（仮名）は、児童養護施設で育ちました。社員寮がある会社で働いていましたが、体調を崩してしまい退職。
アルバイトで生活費を稼ぎひとり暮らしを始めたところ、ほどなくしてコロナの影響で思うように稼げなくなりました。

最近の若菜さん（本人提供）

困っているように見えなかったと思うんですが、数十円の麺ばかり食べてました。

「周りからは困っているように見えなかったと思うんですが、ユキサキチャットに相談したときは数十円の麺ばかり食べてました。野菜も卵も高いから」

飲食店のアルバイトは、コロナの影響を受け給料は1ヶ月で8千円ほど。1万円を超える月はほとんどありませんでした。アルバイト先に行くためのバス代は往復1,000円ほど。交通費のために節約し、別のアルバイトに応募するための履歴書も買えない状況でした。

親とは数年、話をしていません。
「連絡をとれないわけではないけれど、社員寮から引っ越したことも電話番号を変えたことも言ってない。施設にいる間は、職員さんがクッションになってくれてたけど、ちょっと…ね」

家族に頼れず、福祉制度に申請しようとしたことがあります。その時は、直近の収入が収入基準金額より1,000円高くて受理されませんでした。その後もう一度申請しようと役所に向かいましたが、なかなか給付まで至りませんでした。

「私、パパ活やブルセラ※もして、お金を確保してて。サイトを通してお金が振り込まれるので通帳に履歴が残っちゃうんです。『この収入は何ですか?』と訊かれたとき、素直にブルセラだと言っちゃったんです…。役所の方は『ブルセラは犯罪みたいなもの。そういったことをしている人に行政がお金を渡すことはできない』って。私もブルセラが綺麗なものじゃないってのはわかってる。だからそのときは納得したんですよ。家に帰ってから、ユキサキチャットで『再申請に行ってみたけど、犯罪みたいなものと言われちゃいました』と伝えました」

※ブルセラとは、女子高生などが着ていた体操着（ブルマー）やセーラー服の略。制服の他、下着、靴下、など着用済みの衣類を販売すること。専門のネットサイトなどが存在する。
※特定の職種や収入先によって公的支援が受けられないという対応は間違いです。

コロナ禍で仕事を失った女性は多い。パパ活やブルセラサイトでお金を工面したという声は若菜さんだけではありません。「しなくていいなら、したくない」そんな言葉を聞いています。

「ユキサキチャットの相談員さんは、役所の方の対応にすごく怒ってくれて。びっくりしたんですよ。他の市町村で働く方や知り合いの社会福祉士さんにも（この対応が正しいのかどうかを）尋ねてくださったようです。役所にも連絡をとって事実確認をしてくださいました。それからもいろいろあったけど、最終的には給付金を受け取ることができました。でも、なんて言うんだろう…普通にバイトしてもお金がないから。よくなかったかもしれないけど、自分がやったことを犯罪扱いされちゃうのは…精神的にくるものがありました」

お金があってしないのと、お金がなくてできないのは全然違うから嬉しくて

ユキサキチャットで相談を受けた後、すぐにユキサキ便（食糧支援）を届けました。「すっごい早かったんですよ～！」と若菜さんの表情が明るくなりました。

「ごはんだ～！って思いました。届くまで1週間ぐらいかかるかと思ってたので、びっくりしました。箱一杯にレトルトとか缶詰とか入ってて、久々にお米を炊いてカレーを食べました。あと、野菜ジュースが入ってたのが嬉しかった。好きだけど買えなかったから。もともとジュースやお菓子を買わない方なんですが、お金があってしないのと、お金がなくてできないのは全然違うから嬉しくて」

若菜さんが買ってきた植物

自分に対してちょっと「いいこと」みたいなのが、増えてる

D×Pの食糧支援と現金給付を使いながら生活を立て直し、今は仕事も始めました。体調に合わせて働き方を考えてくれる上司に恵まれて楽しくなってきたと言います。「食べるのはすごく好き」と笑う若菜さん。学生の頃から料理することがストレスの発散方法です。

「余裕が無かったときは、全然ごはんは食べられないし、料理もできなくて。最近は、ごはんを作ったりできるようになりました。前みたいに力を入れてお菓子作りはできないけど、気が向く時にちょっとしたお菓子をつくったり。お正月には鍋をしました。鍋ってみんなでつつくイメージがあるんですが、施設ではすぐ無くなるんですよ（笑）すぐ食べちゃうから。お野菜もいっぱいいれて、鍋ができたのが嬉しかった」

つくった朝ごはんとお菓子（右）

お金がない間、病院に通うこともやめていた。働き出してから少しずつ余裕ができて、最近また通院することができるようになりました。
「駅に花屋さんがあったりするじゃないですか。それで、ちょっと花を買ってみたりして。ケーキを買って帰ったりとかも。そういうの、なんて言うんだろう。娯楽というか…自分に対してちょっといいこと?みたいなのが、増えてる」

若菜さんは、ゆっくりと、確かめるように言葉を探します。

「最近一番楽しかったみたいなことはあんまり無いけど、ちょっとしたことがいっぱいあって、楽しい。嬉しい」

こんな言葉に立ち会えたことが嬉しい。穏やかな日々のなかにある小さな幸せが、彼女のもとにこれからもたくさんたくさん訪れますように。

コロナ、緊急支援のいま

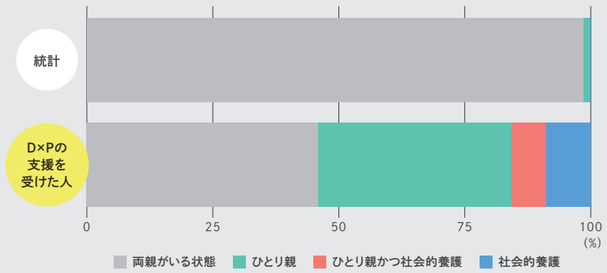
2020年から始めたコロナ禍で困窮する若者への食糧支援・現金給付。緊急支援を続けるなかで、若年層の孤立の背景が見えてきました。

食糧支援・現金給付を希望する若者とは？

ひとり親家庭、社会的養護など、統計上では少数となる家族構成の方が多く支援を希望しています。貧困世帯の50.2%はひとり親家庭であるという調査結果（※内閣府「令和3年 子供の生活状況調査の分析 報告書」）があります。金銭的に家族に頼れず自力で生活する若者の姿が見えてきます。

統計については、平成30年度人口推計より全ての児童を対象にアビームコンサルティングが算出。厚生労働省子ども家庭局家庭福祉課母子家庭等自立支援室「平成30年母子家庭の母及び父子家庭の父の自立支援施策の実施状況」厚生労働省子ども家庭局 厚生労働省社会援護局障害保健福祉部「児童養護施設入所児童等調査の概要（平成30年2月1日現在）」より抜粋。
※合計値から、ひとり親、社会的養護の割合を引いて算出したものを両親がいる状態としています。

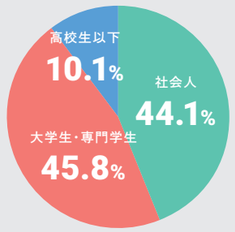
D×Pの支援を受けた人の家族構成と統計データの比較



親に頼れない若者

※「家族に頼れない」とは、困窮時の支援を家族が行なえないこと及び生活に必要な資金を家族が十分に提供していない状況を指します。相談内容の記述により家族関係を判断しました。

D×Pの支援を受けた人の社会的立場



※「D×Pの支援を受けた人」は、2021年9月までの実績177名を対象としています。

親に頼れないさまざまな背景

- 虐待を受けている
  過去に虐待を受けた
- 暴言・嫌味など
  モラルハラスメント
- 家庭内不和
  家族間の関係性が悪い
- 経済的虐待
  （奨学金の使い込みやアルバイト代の搾取など）
- 離別・死別
- 家族が生活保護を受けているなど
  経済的に頼れる状況にない
- 児童養護施設など
  社会的養護のもとで育ち
  親がいない

相談者が抱える問題の分類

金銭的問題
（困窮するきっかけとなる問題）
コロナによる収入の減少
解雇・派遣切り
バイトの求人減少　など

身体的問題
（相談者本人が抱える身体的な傷病・障害に関する問題）
病気や怪我による就労困難
および出費の増加　など

精神的問題
（相談者本人が抱える精神的な病気等の問題）
うつ状態・不安など
メンタルシックによる就労困難

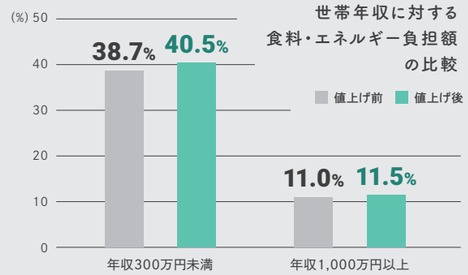
社会的問題
（相談者の家族関係や社会的つながりに関する問題）
虐待・暴言などを受けた
家出による住所不定
ひとり親家庭のため収入が足りない
介護や育児の負担が大きい　など

今後も予想される長期的支援の必要性

相次ぐ値上げによる生活の圧迫

ロシアのウクライナ侵攻により、小麦の価格が高騰しています。2022年春から、さまざまな食料品やエネルギーの価格も上昇。みずほリサーチ&テクノロジーズが発表したレポート※によると食料・エネルギー価格が上昇すると低所得世帯ほど相対的に負担が重くなるとの推計がありました。

世帯年収に対する食料・エネルギー負担額の比較



※みずほリサーチ&テクノロジーズ「必需品の価格上昇で家計に逆進的な負担発生～低所得世帯の負担は消費増税 2%超に相当するインパクト～」より作成

若年層の声

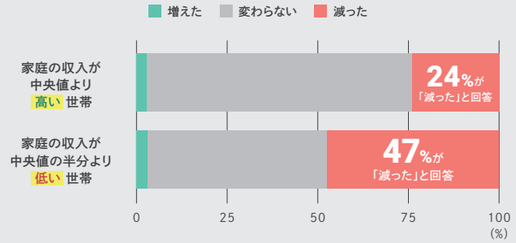
「半額になった食品で飢えをしのいでいます。今後もなにかと値上げになると思います。そうなると、もっと困ります」

「食費にかける余裕はなく、バイト先で賄いを食べる回数も減ったため、食事が十分にとれていません」

コロナ禍の影響は貧困世帯ほど大きい

貧困家庭の47%がコロナ前と比べて世帯収入が減ったと回答。コロナ前から不安定だった生活が、一層厳しい状況になったことが伺えます。

収入状況別コロナ前との世帯収入の変化



引用：内閣府「令和3年 子供の生活状況調査の分析 報告書」（D×Pでグラフを一部編集）

若年層の声

「実家もお金に余裕がなく、自分のことは極力自分で何とかしなくてはならない状況です」

「幼い頃から金銭的に問題がある家庭でした。親が仕事の時間を増やして稼いでくれてますがなかなか難しいと言っています」

これからの緊急支援

長期的な支援を可能に

2022年4月からユキサキ支援パックとして新たな形で食糧支援・現金給付を打ち出しました。皆様からのご寄付を元に最大約1年の長期支援ができる体制をつくります。

詳しく見る

若者の現状を社会へと伝える

昨年は、孤独・孤立対策担当大臣の野田聖子さんと対談し若者の孤立について意見交換を行ないました。また、ユキサキ支援パックを発表後は記者会見を実施。さまざまなメディアで記事として掲載いただきました。世論に訴えかける施策を強化します。

より多くの若者の相談に対応できる体制へ

2022年度内に相談員を3名増員します。また、食糧支援・現金給付に関する給付手続きのチェック作業や入力作業などの業務効率化を図り、より多くの相談に対応できる体制をつくります。

オフラインの取り組み

関わった生徒数

実数 **228**名　延べ **1,543**名

コンポーザーの参加人数

延べ **197**名

（クレッシェンド3校・居場所4校で関わった生徒・参加したコンポーザーの合計）

クレッシェンド

定時制高校で実施する独自プログラム。高校生と
D×Pのボランティア「コンポーザー」が対話する全4回の授業です。

詳しく見る

進学・就職だけでない、卒業後を考えるプログラムへ

2020年度から学年に合わせたプログラムをスタート。
生徒によって進路に対する段階が違い、ひとりひとりに寄り添いづらいという課題が生まれました。
2021年度は、コンポーザーが「どうやって進路を選んだか?」ではなく、仕事や生活について「どう考えているのか?」に重点を置きました。
コンポーザーの話をきっかけに生徒がこれからのことを考えたり、「進路のことを相談させて欲しい」との声が上がったりしました。
対話を通じて人とのつながりが生まれるD×Pらしいプログラムとなりました。

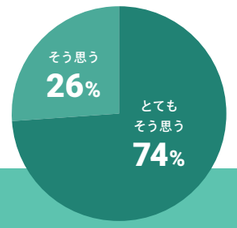
コンポーザーは過去の経験や自分の考えなどを
きっかけに生徒と対話します。
生徒が「こんな生き方もある・こんな考え方もある」と知り、
コンポーザーを身近に思える関係性をつくります。

「ハマっていること」「悩んだこと」などの
テーマに沿って書き出した付箋を貼り、
過去や未来について対話します。

コンポーザーは、「否定せず関わる」
「ひとりひとりと向き合い学ぶ」
を大切に生徒と関わります。
（写真左がコンポーザー）

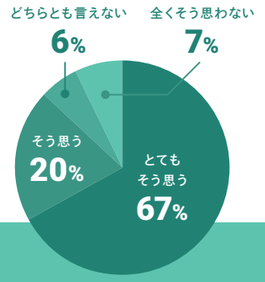
全学年授業後アンケート
（n=68）

クレッシェンドで出会った人と
関わって良かったと思いますか?



3年生授業後アンケート
（n=15）

困ったことがあった時に人に
相談しても良いと思いますか?



居場所事業

週1回、居心地の良い空間を学校のなかにつくります。
高校生が定期的にさまざまな人とつながることができる場です。

詳しく見る

居場所を軸に。生徒に合わせてさまざまな機会を提供

2021年は定期的に居場所事業に関わるコンポーザーが増えました。
生徒の表情や生徒同士の関わりなども、さらに気にかけることができました。
ある学校では、総合学習など毎週の授業にもD×Pスタッフが参加しています。
登校する生徒全員と関わりを持てるようになり、先生やスクールソーシャルワーカーとの連携の強化につながりました。

生徒が自由に居心地よく
過ごせる場をつくっています。

季節に合わせたお楽しみ企画
も実施しました。

食事やお菓子・ジュースなどの配布は、
相談事がなくても訪れることができる場として
一役買っています。
配布する食事は地域の飲食店のもの。
お店の方も生徒と関わってくださっています。

電車が好きで写真も撮るという生徒に
居場所での写真展をスタッフが提案。
生徒の撮った写真で鉄道写真展を
行ないました。

居場所事業での会話のなかで
興味を持った生徒3名と
仕事体験ツアーに行きました。

学校を起点としたチームでのサポート

CASE 1

Aさんの表情を気にかけスタッフが声をかけると、きょうだいとの関係性が悪くしんどい状況にあることがわかりました。何度か話を聞くうちに、Aさんが他の悩みを話すようになりました。スクールソーシャルワーカーに相談することを提案し、スクールソーシャルワーカー・先生・Aさんの3者面談を実施しました。家庭に関する課題の解消は難しく時間も要します。Aさんが学校や週1の居場所以外でも安心できる場を持てるように地域との連携も深める必要があります。

CASE 2

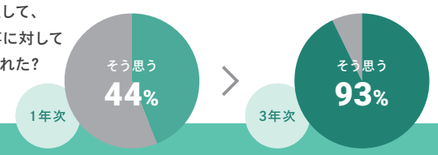
Bさんは、家族の看護のため早退することがあり、学校から情報共有がありました。居場所事業では、雑談のなかで家庭の話を聞きましたが、本人から困っていることは話に出ませんでした。現時点でBさんの生活に大きな支障が出ていないことから、今後Bさんから保護者に福祉につながることを提案するという方針となりました。Bさんの家庭については地域包括支援センターも事情を把握しており、スクールソーシャルワーカー、学校、D×Pの4者間で情報共有できる体制を築けています。D×Pでは継続して話を聞き見守りを続けていきます。

居場所事業アンケート結果
（n=17）

大阪府の定時制高校で入学時より3年間利用した生徒のアンケート結果を比較しました。
「そう思う」と回答をした生徒の割合に変化があり、継続した関わりによる成果が見られました。

居場所がある日は
楽しみに思える?

居場所を通して、
進路や仕事に対して
前向きになれた?



オンラインの取り組み

登録者数	相談者数
7,873名	3,453名

ユキサキチャット

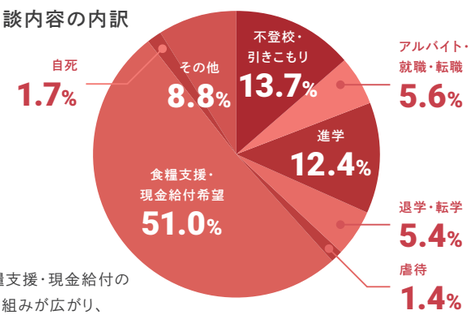
不登校・高校中退などの困難を抱えた10代が
LINEで相談できる窓口です。

詳しく見る

LINE相談からリアルでのサポートへとつなぐ

長期化するコロナ禍によって食糧支援・現金給付を必要とする若者に出会うことが多い1年でした。
一方で、緊急支援だけでは持ち堪えられない若者も少なくはありません。
各自治体の社会福祉協議会・NPO・弁護士などにも協力を仰ぎ、
LINE相談から実地での支援へのつなぎを丁寧に行なっています。
結果、生活保護の受給や債務整理、引っ越し、施設入所などの状況改善につながりました。

相談内容の内訳

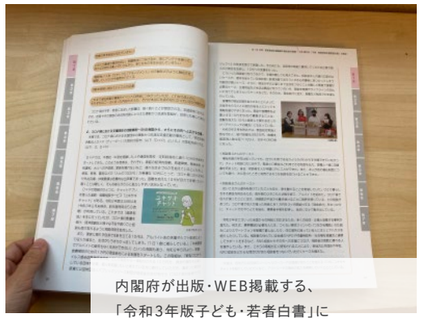


食糧支援・現金給付の
取り組みが広がり、
相談種別の割合が大きく変化しました。

長期間の関わりで関係性をつくる

CASE3

「行きたい学校がないです。学校から進路選択を迫られ、そこまでやりたくもない学科を受けることになっています。最近、朝起きても学校に行きたくなくて休んでしまうことがあります」と高校3年生のCさんから相談が届きました。Cさんの気持ちや家族のもとを離れたいという希望も聞きながら、一緒に進路を考えていきました。この春、進学先が決まりひとり暮らしをすることも決まりました。「友達でも家族でもない、自分のことを知らない方に相談出来るというのがすごく心の味方でした」とご連絡をいただきました。



内閣府が出版・WEB掲載する、
「令和3年版子ども・若者白書」に
ユキサキチャットの取り組みが掲載されました。

地方公共団体との連携も実施し、
関西の1市、徳島市、網走市で
役所や市内の大学などに
ユキサキチャットを紹介するカードやチラシを
設置・配布していただきました。

食糧支援・現金給付

コロナ禍で生活困窮に陥った25歳までの若者へ
支援を行なっています。

詳しく見る

	合計	支援人数
食糧支援	47,040食	508名
現金給付	27,234,000※円	474名

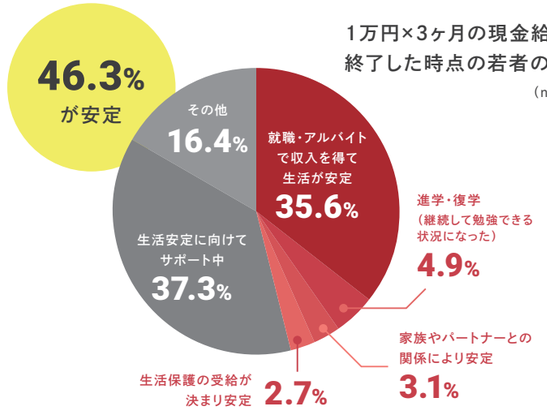
※定期代が足りないという10代の声をうけ、定期代の2万4千円の給付を行なったため金額に端数が出ています。

年末8万円給付で見えた若年層の貧困

年末年始を乗り切るため8万円給付を打ち出し、年内に257名に現金を届けることができました。
年末年始は相談機関も閉まり、家族に頼れない若者は孤立を深めやすい時期です。相談対応も12月31日まで行ないました。

8万円の給付を打ち出すと、これまで以上に厳しい状況の若者から相談が寄せられました。D×Pがサポートしている若者は、氷山の一角にすぎないと感じています。多くの借金を抱えている、まずは医療につながらなければいけないなど、十分な収入を得られるまでにさまざまなステップを踏まなければならない若者がいます。課題解決まで、生活できる資金も必要です。緊急支援に加えて、長期サポートできる体制づくりが急務の課題となりました。

1万円×3ヶ月の現金給付が
終了した時点の若者の状況
(n=225)



食糧支援の希望者急増をうけ、
発送作業の改善を実施しました。
週に最大3,000食の発送が
できるようになりました。

調理器具や家電の有無などを尋ねています。
本人の調理環境や体調に合わせて、
お湯のみ調理セットやコロナ療養セットなど
個別に内容変更も行なっています。

食糧・現金の給付で一時的に危機を回避し、生活安定までをサポート

CASE4

前職で精神疾患になり借金を抱えてしまったDさん。家は物で溢れて足の踏み場がない状態でした。相談と食糧支援に加え、ビデオ通話をつなぎながら掃除をすることに決めました。炊飯器は洗えておらず、ガスコンロのホースも見当たらなかったため、食糧支援ではレトルトご飯を送っていました。少しずつ片付けて、炊飯や調理ができる状態になりました。ユキサキチャットでは、相談者の課題を一緒に整理し解決に向けて必要な道筋を立てています。Dさんとはチャットで信頼関係をつくって本人の希望を汲み取りながら生活の改善ができました。その後、Dさん自身で法テラスや就労支援機関に相談し、つながっています。

CASE5

いわゆるブラック企業を退職して貯金を取り崩しながらひとり暮らしをしていたEさん。当面はアルバイトを予定していましたが、決まっていたアルバイト先の経営状況が悪化。シフトに入れない状態のため食糧支援を実施しました。その後、貯金が間もなく無くなると相談があり、現金給付を実施。家賃の支払いなどから慌てて次の職場を探していましたが、現金給付によって転職活動を落ち着いて進めることができました。D×Pの相談員が同行して地域若者サポートステーションの担当者につなぎました。Eさんは履歴書の添削などの就職サポートを活用しました。現在は新たな職場で仕事をすることができています。

たくさんの方に支えていただきました。（2021年4月1日から 2022年3月31日まで）

D×Pが、経済的にしんどさを抱えた高校生が集まる公立高校で事業を実施でき、
ユキサキチャットでの相談や緊急支援にも取り組めるのは、ご寄付・ご助成いただいている方のおかげです。
一部となりますが、サポーターの皆様をご紹介します。

舞い上がれ 社会を変える みんなの力 休眠預金を活用した事業です ※本事業は、休眠預金等活用新型コロナウイルス対応緊急支援として（公財）信頼資本財団が行う助成事業により実施しています。 公益財団法人信頼資本財団	salesforce 株式会社セールスフォース・ジャパン	大和証券グループ本社 Daiwa Securities Group Inc. 大和証券グループ本社／パブリックリソース財団	CATERPILLAR FOUNDATION CATERPILLAR Caterpillar Foundation	株式会社蒼江 西尾伸介様
Supported by READYFOR READYFORの基金事業のサポートを受けて活動しています Supported by TMCF いのちとこころを守るSOS基金	畑中洋亮様	kizuna NFT チャリティープロジェクト kizuna 藤本 真衣様	村田規子様	赤い羽根共同募金 地域の子どもの福祉のための助成 社会福祉法人大阪府共同募金会
合同会社 日本の田舎は資本主義のフロンティアだ	藤野英人様	ハートポケット倶楽部 花王ハートポケット倶楽部	BEAUTY NAILER 株式会社ビューティーネイラー	RSTC リツアンSTC 株式会社リツアンSTC
公認会計士 渡邉淳事務所 渡邉淳様	bj group BJ 株式会社BJefホールディングス	金属アレルギー対応アクセサリーパーツ専門ショップ Apfel アップフェル 高橋商会株式会社	大塚雄三様	株式会社 partyfactory
辻本義信様	堤真一様	FELISSIMO 株式会社フェリシモ	KonMari KonMari Media Japan株式会社	山田安廣様
フリーランスの学校 freelance School フリーランスの学校	村上財団 The Murakami Family Foundation 一般財団法人村上財団	金田洋子様	木暮太一様	杉山大樹様
石神久美子様	桐谷直毅様	立川直美様	emiria EMIRIAWIZ 株式会社voyage	茨賢会 IBAJINKAI 医療法人社団茨賢会
ひふみ INW	小林明子様	高橋知裕様	地守亮様	株式会社 山本真司事務所
藤﨑まり子様	徳永有美様	Abstract Engine 株式会社アブストラクトエンジン	Johnson & Johnson FAMILY OF COMPANIES IN JAPAN ジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人グループ	

月間寄付サポーター **2,462**名

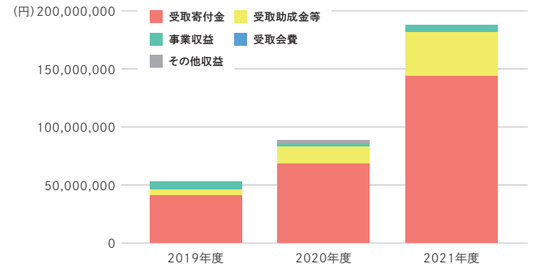
個人の月額寄付サポーターは2,382名、法人は80件とたくさんの方に支えていただきました。単発では528名の方にご寄付をいただきました。今年度は、NHKこころの時代やMBS映像21'など今井のドキュメンタリーで多くの方に取り組みを知っていただきました。「若者の困窮を黙って見ていられない。何かできることをしたい」「どうかひとりでも多くの子どもたちが、心豊かに過ごせるように」「子どもにはのびのび楽しく生きてほしいので」「子どもや学生こそ社会で大切にしないといけない。大人の役目だと思います」とご寄付とともにさまざまなメッセージも寄せていただいています。

2021年度 活動計算書（2021年4月1日から 2022年3月31日まで）

科目		金額（単位：円） 前期（2020年度）	今期（2021年度）
経常収益	受取会費	60,000	60,000
	受取寄附金	68,532,068	143,712,335 ①
	受取助成金等	14,660,279	37,741,100 ②
	事業収益	2,784,281	5,666,130 ③
	その他収益	2,472,295	124,044
経常収益合計		88,508,923	187,303,609
経常費用	(1)事業費		
	人件費/法定福利費	38,132,218	51,283,920 ④
	福利厚生費	202,475	27,837
	旅費交通費	1,133,151	1,746,196 ⑤
	消耗品・備品費	880,837	282,069
	賃借料	1,814,403	2,257,118
	通信費	1,352,248	3,126,532 ⑥
	印刷製本費	574,020	815,523
	減価償却費	891,161	416,463
	業務委託料	6,429,207	9,793,487 ⑦
	広告宣伝費	183,920	1,603,539 ⑧
	支払手数料	2,923,829	6,124,049 ⑨
	給付支援費	4,531,293	39,857,566 ⑩
	その他	1,163,070	1,415,087
	事業費合計	60,211,832	118,749,386
	(2)管理費		
	人件費/法定福利費	8,537,642	11,045,264 ⑪
	その他	6,671,741	6,548,766 ⑫
	管理費合計	15,209,383	17,594,030
経常費用合計		75,421,215	136,343,416
当期経常増減額		13,087,708	50,960,193
経常外収益		0	0
経常外費用		0	0
税引前当期正味財産増減額		13,087,708	50,960,193
法人税、住民税及び事業税		70,689	70,498
当期正味財産増減額		13,017,019	50,889,695
前期繰越正味財産額		-1,900,984	11,116,035
指定正味財産増減額		0	0
一般正味財産増減額		0	0
次期繰越正味財産額		11,116,035	62,005,730 ⑬

※ 今年度はその他の事業を実施していません。

経常収入内訳 3期比較



※ 紙面の都合上掲載できませんでしたが、すべての勘定科目別に表記されている活動計算書（P/L）、貸借対照表、財産目録、そして監査報告書はD×PのWebサイトに開示しております。合わせてご覧くださいませ。

この活動計算書は会計帳簿の記載金額と一致し、
特定非営利活動法人D×Pの収支を正しく示していることを認めます。
監事　毛受芳高（一般社団法人アスバシ）
会計監査　公認会計士 大磯毅（株式会社わかば経営会計）

① **受取寄附金**
昨年度より約7,518万円の増収となっています。受取寄附金のうち約6,839万円が定期のなご寄付です。月額寄付サポーターは1,402名→ 2,462名（約1.7倍）となり多くの皆様に支えていただきました。

② **受取助成金等**
公益財団法人 信頼資本財団様、大和証券グループ 輝く未来へ こども応援基金様、いのちとこころを守るSOS基金様、大和証券グループ未来応援ボンド こども支援団体サステナブル基金様、花王ハートポケット倶楽部 みらいポケット基金様、Caterpillar Foundation様、社会福祉法人 大阪府共同募金会様、若者おうえん基金様からの助成金が含まれています。
またp.9掲載の助成財団様からの助成金は一部前受金扱いとなり、2022年度分として計上されるものがあります。

③ **事業収益**
うち約444万円は大阪府および京都市の高校内での居場所事業を受託したものです。また、約112万円は若者が置かれた環境を伝える講演活動やユキサキチャットでの実績・運営ノウハウをお伝えする勉強会等の収入となります。

④ **人件費/法定福利費**
全職員にベースアップを行なったことや急激に相談量が増えたことで増員したため、2020年度より1,315万円増額しています。皆様からいただくご寄付の多くが、人件費・法定福利費に充てられています。若年層の多様なニーズに応えるため職員には幅広い専門性が求められるほか、少ない人数のため様々な業務をひとりで担っています。しかし、目標としている大阪府の平均給与のレベルには達しておらず、職員の待遇は経営課題です。（2022年4月にも全職員へのベースアップを行なっています）

⑤ **旅費交通費**
2019年度は約856万円でしたが、2020年度・2021年度ともに100万円台です。引き続きコロナ禍のなかで在宅勤務を中心にしているため交通費が下がっています。

⑥ **通信費**
うち約170万円が食糧支援にともなう発送費です。また、オンライン事業の相談員の増員にともなってWi-Fi代・携帯電話代などが増えました。

⑦ **業務委託料**
オンライン事業の相談員の一部は、業務委託契約で相談対応を担っています。ユキサキチャットへの相談者数が激増したため、相談員の増員分委託費が増えています。また、食糧支援配送のための業務も委託し、発送業務がスムーズになりました。

⑧ **広告宣伝費**
2021年度は大和証券グループ未来応援ボンド こども支援団体サステナブル基金様からのご助成金により公式WEBページのリニューアルやSNSでの広告発信を行ないました。

⑨ **支払手数料**
ユキサキチャットを運営するためのシステム利用料や、寄付受け取りのためのシステム利用料が含まれています。2021年度から現金給付における不正防止を目的とした、eKYC（オンライン本人確認システム）の導入や、セキュリティ向上のための二段階認証の導入も行なっています。

⑩ **給付支援費**
10代-20代前半の若者に届けるために購入した食糧や日用品の実費や、家賃等に充ててもらうために給付した金額、居場所事業で配布した食べ物等が「給付支援費」にあたります。昨年度の約453万円を大幅に超え、約3,985万円（約8.8倍増）を支出しました。

⑪ **人件費/法定福利費（管理費）**
経理・総務・労務・法務等を担当する管理部門のスタッフは1名、その他事業部門のスタッフが管理部門の業務も兼ねて担っています。より業務の正確性を上げて組織基盤を強化するため、次年度の2022年4月から管理部門の専任職員を1名増員します。

⑫ **その他（管理費）**
うち業務委託料約269万円、支払手数料約119万円、消耗品・備品費約35万円などが主な支出です。勤怠管理システムや会計システムなど、業務を簡略化するためのサービスの利用料や、顧問弁護士・社労士・税理士への支払いや監査の実施など、専門家の知見を得るための費用も発生しています。

⑬ **次期繰越正味財産額**
約6,200万円を次年度に向けた資金として繰り越しました。この資金を土台に、D×Pでは2022年4月に食糧支援と現金給付と相談事業をかけあわせた新たな支援パッケージを打ち出しました。昨今のインフレもあり経済情勢も悪化していることから、無収入寿命（仮に収入がゼロになっても経営の現状維持ができる期間）を最低6ヶ月確保することを経営指標としています。食糧支援等の緊急予算も含め最低約8,600万円を確保したいと考えておりましたが、約6,200万円にとどまりました。突然ユキサキチャットや定時制高校での取り組みが途絶えてしまい、相談先がなくなってしまう若者が生まれることのないよう、十分な資金を確保しつつも、今困窮している10代・20代前半の若者にサポートが届けられるよう、迅速に意志決定していきます。